



坂町道徳作文 特選作品

帰り道に起こったこと

坂中学校1年
川瀬 蒼太

真夏の暑い日曜日、僕は部活が終わって友だちと帰っていた。ふと見ると、おじさんが自転車で乗っていた。その時だった。おじさんがふらついて道路側に自転車ごと倒れて、少しだけ車にぶつかってしまった。それを見た僕と友だちは、慌てておじさんの方へ走って行き、声をかけ、おじさんと自転車を起こした。ぶつかった車に乗っておられた方も外に出てこられた。幸い、おじさんに怪我はなかった。急だったので、何をしたらいいのかわからなかった。こんな時に、まず何をすればいいのかを、すぐに考えられる人になりたい。

僕は、この出来事で学んだことが三つある。ひとつ目は、いつも周りを見て行動することだ。何が起ころうとも臨機応変に行動できるように周りを見ることは大切だと思う。

ふたつ目は、何事にも落ちついて行動することだ。例えば、自然災害など、いつ起こるか分からない。僕が小学1年生の時、西日本豪雨災害があった。大雨で道に土砂が流れていて、みんなが怖い思いをしている時にも、近所の方は、「落ちついて行動してね。」とおっしゃっていた。そのおかげで、大きな混乱もなく、なんとか災害を乗り越えてこられたのだと思う。そして、三つ目は、何に対しても準備しておくことだ。僕の学校の先生が、「準備八割。」

と、いつも言っておられる。これは「仕事は準備の段階で八割が決まる」という、準備の大切さを説いている。僕は試験がある

時でも、この「準備八割」を、忘れずに取り組んでいる。また、災害が起こった時でも、事前に避難ルートを確認しておいたり、避難用バックを用意しておいたり、いつ何が起ころうとも大丈夫のように、準備をしておくことの大切さを、改めて感じた。

前までは、自分でも何をしたらいいかわからず、おどおどしていた。しかし、このおじさんを助けた出来事をきっかけに、自分はどうやって行動したらいいのか、どのように行動したらいいかなどがわかってきた。これからは、自分の身の回りで、実際に起きたことだけでなく、災害ボランティアや募金など、身近ではないこと、どんなに小さなことにも取り組んでいきたい。そして、最初は驚いてしまうこともあるだろうが、「怖い」とか「どうしよう」などの気持ちは捨てて、自分にできる最大限のことをすることが、一番大

切だと思う。

もしも、またこのようなことが起こったら、自分はどうして行動したらいいのか、どうすればよいのかを考えられる人でありたい。そして、いつ、どこで、何が起ころうかわからないからこそ、周りをしっかりと見て、慌てずに、今、何をしたらいいかを判断していきたいとも思う。慌ててしまったら、また、何か悪いことにつながってしまうかもしれない。落ち着いて行動し、人のために行動できる大人になりたいと思う。



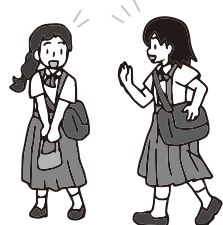
『一緒に頑張ろう』という魔法の言葉

坂中学校2年
木村 結菜

『一緒に頑張ろう』は、相手をひとりにさせない

私は、母と新人の話を聞いて、『一緒に頑張ろう』と、ひとりではないと思えることで、一体、どれだけ人は強くなれるのだろうと考えた。その魔法の言葉に、何人の人が救われてきたのだろう。

魔法の言葉は、母から新人の方に、そして、私へと伝わってきた。私はこれから会うたくさんの人にもこの言葉を伝えていきたいと思う。なぜなら、多くの人の支えになると思うからだ。頑張れと応援されるより、一緒に頑張ろうと励まされた方が強くなれる。頑張る勇気がもらえる。『一緒に頑張ろう』は、相手をひとりで悩ませないための魔法の言葉だと思う。だからこそ、私は、大切な人を救うために、魔法の言葉を使っていくべきだと思う。



ための言葉だよ。」

と、母が言っていた。私の母は、銀行で働いている。そこで、新入社員の手導に当たり、約3ヶ月ほど交換日誌をしていた。新人の方が、毎日の報告や学んだ事を記入し、それに母がコメントを書くという作業だ。少し前に、母が、このコメントを書くときに心がけていることがあると言っていた。それは、コメントの最後に『一緒に頑張ろう』という言葉を添えることだ。私は、『一緒に頑張ろう』という言葉を聞いたとき、「相手がひとりで悩まないための優しい言葉だな。」と思った。そして、どんなときも相手を思いやるかっこいい母らしい言葉だと思った。それから少し経ったある日、新人だった人が、「木村さんの『一緒に頑張ろう』という言葉が、ずっと心の支えになっていました。」

発信

坂中学校3年
久保田 歩

「私たちは広島に生まれた。だから、発信しなければいけない。それが使命だから。」

これは、学校に出前授業で書写を教えるに来てくださった先生の言葉だ。先生は、広島県の原爆について、平和のメッセージを書し、伝える活動をされておられ、海外でも活動されておられるそうだ。

私は広島に生まれ、幼い頃から原爆についての学習をしてきた。「8月6日午前8時15分」毎年、この日に手を合わせ、哀悼の意を込めて黙祷を捧げる。毎年、平和学習を行っているため、これ以上、私が見られるものはないのではないかと、私がいっぱい文字を書いていかれた。